

リベラルアーツ「最澄と空海」!

●齊藤 恵様の「最澄と空海」を学んで その2

11月29日(土)

の久喜麗和会 第53回 田園文化都市研究会、齊藤 恵様 (高18) による研究報告「最澄と空海」の続きを綴ってまいりましょう。

◇ ◇

◆最澄と桓武天皇

還学生・最澄と留学生・空海が遣唐使に随行して唐へ渡ったのが804年7月で9月に唐に到着します。そんな最澄の後ろ盾となったのが、桓武天皇(在位781-806年)です。桓武天皇は、平城京からの脱出に想いを巡らせるのですが、そんな強い願いにぴったりと合ったのが、比叡山に籠り孤独な隠遁修行者であった最澄だったのです。天皇の後ろ盾を得た最澄は、南都仏教に対抗して活躍しました。平城京脱出の主な原因は……。

- ◇ 平城京時代、「鎮護国家の仏教」という概念の下、大発展してきた南都(奈良)仏教があまりにも強大化し、政治に介入して、スキャンダルまみれになってきたこと。
- ◇ 東大寺の大仏(開眼供養752年)建立の財政破綻と、大仏建立時に大量に使用された水銀による、かなりの数の水銀中毒者の発生。
- ◇ 平城京の上下水道不備による、あいつぐ疫病の発生(地形的に平地で川が少ない)。
- ◇ 朝廷内部の権力闘争の激化、それに大寺院・貴族がからんでいました。

[香田注:このような遷都の理由を知ると、現代の政治に繋がるものがあるように思えますね。歴史は繰り返されるのでしょうか? 為政者の反省はないのかと心配になります。凡人の独りごとです!]

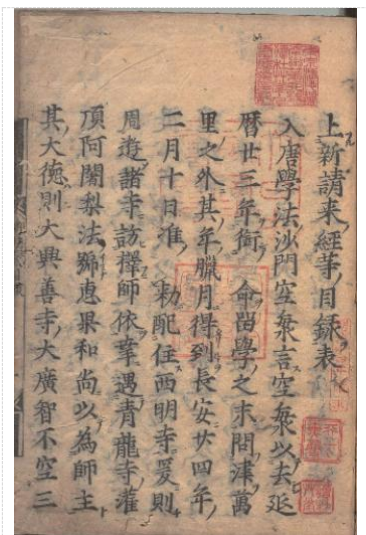
桓武天皇は、平城京から北へ40kmの位置にある長岡京に遷都するのですが、貴族や寺院を含めた平城京既存勢力の影響もあり、長岡京使であった藤原種継が暗殺されたこと、桓武天皇に謀反を起こした皇太弟早良親王の死後、日照りによる飢饉・疫病の流行と怨霊、大洪水などにより、遷都から10年で長岡京を捨て、平安京に遷るのでした。

◆最澄と空海の帰国

唐に渡った最澄は唐に入った翌年の805年7月、在唐期間9カ月で帰国し、桓武天皇によってただちに天台宗が公認されました。

一方の空海は留学生として本来であれば20年以上に亘って唐に滞在し、後の遣唐使一行等の世話をしなくてはならなかったのですが、許可も得ずに806年3月に長安を離れて越州(現在の紹興市)に到着し、8月に唐を出発して日本に帰国します。在唐期間2年弱でした。帰国した空海は「闕期(けつご)の罪」に問われて謹慎の身となり、京に戻ることは許されず大宰府に留め置かれました。そこで、空海は朝廷に対して達筆な「御請来目録(ごしょうらいもくろく)」を何度も提出して自分をアピールしました。御請来目録というのは、入唐した僧侶たちが日本に請来(持ち帰った)した典籍、物品の目録ですが、自分が唐で学んできた真言密教の価値や、これまで日本では誰も見たことのない経典や仏具等、密教の神髄を持ち帰って来て、それを早く日本に広めようとしているのだから、闕期の罪などは許されるべきだという弁明を堂々と展開するのです。達筆な書体[写真右:「御請来目録」の一部、国会図書館蔵より引用]がそれに加わり、強いプレゼン力を発揮しました。

実直な最澄も自身の「御請来目録」(台州録と越州録)とは別に、空海の「御請来目録」を模写するとともに、この空海の「闕期の罪」が解かれるように朝廷に文を出します。空海が入京を許されるのは、嵯峨天皇が即位する809年でした。空海の入京には、最澄の尽力や支援がありました。その後、2人は10年程交流関係を持ちました。密教の分野に限っては最澄が空海に対して弟子としての礼を取っていたと伝えられています。しかし、法華一乘(ほっけいちじょう、声聞・縁覚・菩薩の三乗は法華経によって一つに融合されるという天台宗の教え)を掲げる最澄と密教一乘(みつごん、密教の教えをまとめ、実践的な修行を通じて悟りを開くことを目指すとする)を標榜する空海とは徐々に対立するようになり、816年初頭頃に訣別します。2人の訣別に関しては、後述の最澄からの理趣釈経の借覧要請を空海が拒絶したことや、最澄の弟子泰範が空海の下へ走った問題もあり、更に間接的な問題として、貴族社会の変化が「天台から密教へ」という平安仏教の潮流変化をもたらし、それが両者の関係にも影響を与えたとする見方もあるようです。



「御請来目録」国会図書館より

◆両者の後ろ盾となった天皇たち

最澄の後ろ盾となった桓武天皇は、平城京から長岡京、平安京と遷都していきます。長岡京造営には、藤原式家出身の藤原種継（たねつぐ）が造営責任者として当たりましたが、785年工事監督中に暗殺され、桓武天皇の弟・早良親王（さわらしんのう）が、その暗殺に連座したと疑われ幽閉、死去。その後、怨霊の祟りや2度の洪水などで平安京への遷都を決断します。しかし、藤原種継の二人の子供、藤原仲成（なかなり）と薬子（くすこ）は、遷都を心良く思っていませんでした。薬子は中納言・藤原縄主（ただぬし）の妻で3男2女の母となり、桓武天皇の皇太子・安殿親王（あてしんのう、後の平城（へいぜい）天皇）の妃に幼い長女を嫁がせ後見役として自らも入内します。ところが、安殿親王（25歳）は後見役の薬子（32、3歳）と不倫してしまうのです。

このことを知った桓武天皇は激怒して、薬子を朝廷から追放。これがきっかけとなって桓武天皇と安殿親王の溝が深まって行きます。806年に桓武天皇が崩御し、安殿親王は即位して平城天皇（在位806-809年）となります。すると間もなく、平城天皇は薬子を「内侍（ないしのかみ、天皇の言葉を臣下に伝え、臣下の言葉を天皇に伝える女性の役職）」に任命して宮廷に呼び戻し寵愛しました。薬子の夫・藤原縄主は大宰大貳（大宰府の最高位者）として太宰府に飛ばされます。生来病弱であった平城天皇は、次第に薬子の言いなりになり、薬子の兄の藤原仲成が大きな権勢をふるうようになります。

しかし、病弱な平城天皇は在位3年で退位し、皇太子に任命していた弟の賀美能親王（かみのしんのう）に皇位を譲り、嵯峨天皇（在位809-823年）が即位します。嵯峨天皇は薬子を遠ざけるために「内侍」に代わり「蔵人頭（くろうどのとう）」という男性のみの取次役を設置します。

薬子を「内侍」から外して「蔵人頭」を設置したことを聞いた平城上皇は、藤原仲成を平安京に呼び戻して、嵯峨天皇の動きを監視させます。ここに至って、平城上皇と嵯峨天皇の兄弟対立が激化します。政務を離れて病氣療養をしたおかげで元気を取り戻した平城上皇の周辺には、平安京遷都によって権益を失った平城京の旧勢力と集まり、810年9月6日に平城上皇は嵯峨天皇に無断で「都を平城京に戻す」という「詔」を発してしまいました。これに対して嵯峨天皇は、坂上田村麻呂と藤原北家の藤原冬嗣（ふゆつぐ）を平城京に派遣して包囲し、9月11日に藤原仲成は処刑、平城上皇は剃髪して仏門に入り、薬子は服毒自殺して「薬子の変」は幕を閉じます。

これ以降、明治維新まで摂関家は藤原北家の後裔が独占し、近衛・一条・九条・鷹司・二条は北家の流れです。

◆空海の活躍

「薬子の変」の際、嵯峨天皇により空海は高雄の神護寺に入れてもらい、唐から密教の奥義を授けられた僧に祈祷を頼みました。真言密教の強みのひとつは、その呪力、呪術的要素にありました。それは最澄の天台仏教が目指していた、思弁的で巨大な仏教理論や修行法では、必ずしもまかないきれないものだったのです。真言密教は、国家鎮護と玉体安穩を祈祷によって達成しようとするパフォーマンスに優れていたのです。空海の達筆さとプレゼンテーション力の強さがここでも大いに発揮されました。ちなみに陰陽道で名を残している安倍晴明（921-1005年）は、ずっと後の藤原道長の時代の陰陽師です。

平安京は落ち着きを取り戻しました。そしてこれは空海の祈祷のおかげだということになり、嵯峨天皇と空海の結びつきは驚くほど強くなったのです。嵯峨天皇は自らも書を得意としており、強い文学的趣味を持っていましたが、それらが空海の得意分野と通じていたことも、空海と真言宗のその後の大発展に大きな影響をもたらしました。その後、空海の強い願いが聞き入れられて、活動の拠点として高野山を与えられ、さらには京都内の東寺まで与えられ、真言宗の大発展につながっていきました。〔神護寺入山（809年）、薬子の変（810年）、高野山開創勅許（816年）、東寺下賜（823年）〕薬子の変は、こうして真言宗が短い間に大発展を遂げた重要な原因になりました。空海は、すべての面で先行していた最澄に追いつき、追い越したのはこういう政治的な事情があったのです。

その一方の最澄は、入唐還学生（にっとうげんがくしょう）として、平安仏教の指導者になり、仏教界で圧倒的な影響力を持ちました。また南都仏教とは対立的立場を取り、論争も積極的に行いました。まさに平安仏教の第一人者として活躍していたのです。ただ、最澄の唐滞在期間は9カ月で、いかんせん短期間過ぎました。天台仏教の習得はできたものの、密教に関しては、ほとんど学ぶことができなかったのです。でも、鎮護国家のためには呪力を得意とする密教の教えも必要でした。そこで、空海の教えを受けた時期もありました。

◆哲学者で歴史家の梅原 猛氏曰く

「私は空海の大崇拜者であるが、この往復書簡を読む限り、最澄に同情を禁じ得ない。純粹で一本気の最澄が、世間を知り尽くした空海に手玉に取られている感じである」と語られ、世間ずれしていない純粹な最澄、世間の荒波を体験してきた空海という人物像を語られています。6世紀半ばに起こった蘇我氏（仏教）と物部氏（神道）との戦いで仏教側が使用利したが、その後、神仏融合により蜜月関係が成就したのは空海の実言密教の影響と仰っています。

◆高野聖（こうやひじり）

日本全国に空海・弘法大師伝説があるのは、「高野聖」という遊行者の存在が大きかったと思います。



リベラルアーツを実践されている斎藤忠様の素晴らしい歴史研究、今後も勉強させていただきたいと思いました。